

# 博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡 / 湯之奥・中山金山

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報



## 天野山梨県知事来館

新年を迎えて約1箇月程過ぎた1月25日(金)「県政ふれあい座談会」のため、天野建山梨県知事が下部町を訪問され、博物館へ来館されました。(中央左が土橋町長、右为天野知事)。

博物館に到着すると、土橋金六町長、谷口館長の案内で二階展示室を見学した後、一階体験室では砂金採りも体験され、博物館の魅力を感じていただきました。館内を一通り見学され写真撮影にも快く対応していただき、終始にこやかに見学されました。

下部町にはたくさんの自然・歴史・文化遺産があり、その歴史遺産のひとつである湯之奥金山は現在の私たちに多くのメッセージを伝えています。そのガイドンス館である博物館は、観光施設としても十分にその役割を果たしていることをくみ取って頂けたように感じました。

# 開館5周年記念 第5回 企画展開催に当たって

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館は平成9年4月24日に開館以来、本年4月には満5周年を迎えることが出来ました。

この間、8万数千人の有料入館者をお迎えすることが出来ました。開館時の町民招待、県民の日の無料入館者、行政視察の方々の入館者をプラスしますと、約10万人に近い来館者に利用していただいたこととなります。多くの県内外の皆様が、下部町の友人となり、また親善大使になってくださったと思います。

さて、企画展は「金山史研究」に直結するテーマで過去4回開催してまいりました。特別展は「一般教養」的なテーマで過去5回開催してまいりました。今回は、5周年記念にふさわしい内容を検討した結果、『甲州金から幕府の金へ』をサブタイトルとして第5回企画展『金貨』展を開催する運びとなりました。

甲州の金は、武田の碁石金から始まり、やがて甲州の貨幣制度を生み出していきますが、さらに幕府の貨幣制度へと継承されていきます。

その過程で鑄造された各時代の金貨を一堂に展示できる機会に恵まれました。これは、その金貨を所蔵されている奥山源栄氏の御快諾の上を実現したもので、この機会に多くの皆様の御観覧をお勧めいたします。

また、今回は県下2箇所の遺跡の現場から発見された話題性の高い、甲府城跡から出土した「慶長一分判」、鯉沢河岸遺跡出土の「甲州老分判」「南鐮二朱銀」を山梨県立考古博物館の御協力を頂き、「峡南地区」で初めて展示公開することが出来ました。

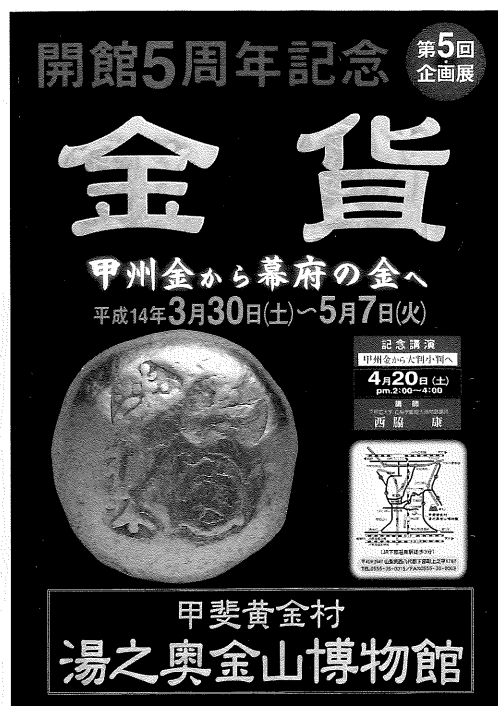
山梨中銀金融資料館からは、江戸時代後期の「千両箱」「銭箱」などの貴重な資料を御提供いただき展示公開出来ました。

最後に今回の企画展に際し、所蔵品を御提供くださいました前記各位、展示品交渉で春日居町郷土館、また展示全般で西脇康先生の御指導を頂きましたが、厚く感謝を申し上げます。

この機会に多くの皆様方の御来館と御観覧をお願い申し上げ、あいさついたします。

開催期間 5月7日(火)まで(毎週水曜日 休館日)  
開催時間 午前9時～午後4時30分(4月まで)  
午前9時～午後5時30分(5月から)

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館  
館長 谷口 一夫



## 記念講演

演 題 「甲州金から大判小判へ」  
日 時 4月20日(土) 午後2時～4時  
講 師 西 脇 康 早稲田大学非常勤講師

# 展示金貨一覽

## 古甲州金

No	貨幣名称(公称)	貨幣界分類名称	伝来	特記事項	量目(g)
1	古甲州金 壹分判(石目打、下端に花押印あり)	古甲州金 松木石目打壹分金(裏面に花押印あり)	個人蔵	松木極印、裏面は石目打ちの痕跡、下端に花押印あり	4.00
2	古甲州金 貳朱判(石目打、下端に花押印あり)	古甲州金 松木石目打貳朱金(裏面に花押印あり)	個人蔵	松木極印、裏面は石目打ちの痕跡、下端に花押印あり	1.91
3	古甲州金 貳朱判(石目打、下端に花押印あり)	古甲州金 松木石目打貳朱金(裏面に花押印あり)	個人蔵	松木極印、裏面は石目打ちの痕跡、下端に花押印あり	1.89
4	古甲州金 壹分判(平滑、中央に花押印あり)	古甲州金 松木壹分金(裏面に花押印あり)	個人蔵	松木極印、裏面は平滑、中央に花押印あり	3.65
5	古甲州金 壹分判(平滑、中央に花押印あり)	古甲州金 松木壹分金(裏面に花押印あり)	個人蔵	松木極印、裏面は平滑、中央に花押印あり	3.67
6	古甲州金 貳朱判(平滑、中央に「忠」字花押印あり)	古甲州金 松木貳朱金(裏面に花押印あり)	個人蔵	松木極印、裏面は平滑、中央に「忠」字花押印あり	1.34
7	古甲州金 貳朱判(平滑、中央に「忠」字花押印あり)	古甲州金 松木貳朱金(裏面に花押印あり)	個人蔵	松木極印、裏面は平滑、中央に「忠」字花押印あり	0.91
8	古甲州金 壹分判(平滑、三日月様の極印あり)	古甲州金 松木壹分金(裏面に花押印あり)	個人蔵	松木極印、裏面は中央に三日月様の極印あり	3.72
9	古甲州金 壹分判(平滑、三日月様の極印あり)	古甲州金 松木壹分金(裏面に花押印あり)	個人蔵	松木極印、裏面は中央に三日月様の極印あり	3.73
10	古甲州金 壹分判(平滑、三日月様の極印あり)	古甲州金 松木壹分金(裏面に花押印あり)	個人蔵	松木極印、裏面は中央に三日月様の極印あり	3.71
11	古甲州金 壹分判(平滑)	古甲州金 松木無地壹分金	個人蔵	松木極印、裏面は平滑	1.89
12	古甲州金 貳朱判(平滑)	古甲州金 松木無地貳朱金	個人蔵	松木極印、裏面は平滑、極印はない	1.87
13	古甲州金 貳朱判(平滑)	古甲州金 松木無地貳朱金	個人蔵	松木極印、裏面は平滑、極印はない	1.88
14	古甲州金 貳朱判(平滑)	古甲州金 松木無地貳朱金	個人蔵	松木極印、裏面は平滑、極印はない	1.86
15	古甲州金 貳朱判(平滑)	古甲州金 松木無地貳朱金	個人蔵	松木極印、裏面は平滑、極印はない	1.87
16	古甲州金 貳朱判(平滑)	古甲州金 松木無地貳朱金	個人蔵	松木極印、裏面は平滑、極印はない	1.89
17	古甲州金 貳朱判(平滑)	古甲州金 松木無地貳朱金	個人蔵	松木極印、裏面は平滑、極印はない	1.79
18	古甲州金 壹朱判(平滑)	古甲州金 松木無地壹朱金	個人蔵	松木極印、裏面は平滑、一部に石目打ちの痕跡、極印はない	0.93
19	古甲州金 壹朱判(平滑)	古甲州金 松木無地壹朱金	個人蔵	松木極印、裏面は平滑、極印はない	0.92
20	古甲州金 壹朱判(平滑)	古甲州金 松木無地壹朱金	個人蔵	松木極印、裏面は平滑、極印はない	0.91
21	古甲州金 中判(平滑)	古甲州金 松木無地中判	個人蔵	丸形、松木極印、裏面は平滑、極印はない	0.21

## 新甲州金

No	貨幣名称(公称)	貨幣界分類名称	伝来	特記事項	量目(g)
22	新甲州金 甲中安吹壹分判	新甲州金 甲中安吹壹分金	個人蔵	裏面の上部に「甲」字極印、中央に「安」字極印あり、色付剥落	3.79
23	新甲州金 甲中安吹貳朱判	新甲州金 甲中安吹貳朱金	個人蔵	裏面の上部に「甲」字極印、中央に「安」字極印あり、色付剥落	1.84
24	新甲州金 甲中安吹壹朱判	新甲州金 甲中安吹壹朱金	個人蔵	裏面の上部に「甲」字極印、中央に「安」字極印あり、色付剥落	0.91
25	新甲州金 甲中安吹壹朱判	新甲州金 甲中安吹壹朱金	個人蔵	裏面の上部に「甲」字極印、中央に「安」字極印あり、色付剥落	0.89
26	新甲州金 甲中安吹壹朱判	新甲州金 甲中安吹壹朱金	個人蔵	裏面の上部に「甲」字極印、中央に「安」字極印あり、色付剥落	0.93
27	新甲州金 甲中安吹壹判	新甲州金 甲中安吹壹分金	個人蔵	裏面の中央に「安」字極印。金色よし。	3.68
28	新甲州金 甲重壹分判	新甲州金 甲重壹分金	個人蔵	裏面の上部に「甲」字極印、下部に「重」字極印、両替の極印1カ所あり	3.70
29	新甲州金 甲重壹分判	新甲州金 甲重壹分金	個人蔵	裏面の上部に「甲」字極印、下部に「重」字極印、両替の極印2カ所あり	3.72
30	新甲州金 甲重壹分判	新甲州金 甲重壹分金	個人蔵	裏面の上部に「甲」字極印、下部に「重」字極印、両替の極印1カ所あり	3.87
31	新甲州金 甲重貳朱判	新甲州金 甲重貳朱金	個人蔵	裏面の上部に「甲」字極印、下部に「重」字極印あり	1.86
32	新甲州金 甲重貳朱判	新甲州金 甲重貳朱金	個人蔵	裏面の上部に「甲」字極印、下部に「重」字極印あり	1.83
33	新甲州金 甲重貳朱判	新甲州金 甲重貳朱金	個人蔵	裏面の上部に「甲」字極印、下部に「重」字極印、右に切痕あり	1.82
34	新甲州金 甲重壹分判	新甲州金 甲重壹分金	個人蔵	裏面の上部に「甲」字極印、下部に「重」字極印あり	0.92
35	新甲州金 甲重貳朱判	新甲州金 甲重貳朱金	個人蔵	裏面の上部に「甲」字極印、下部に「重」字極印あり	0.92
36	新甲州金 甲重貳朱判	新甲州金 甲重貳朱金	個人蔵	裏面の上部に「甲」字極印、下部に「重」字極印あり	0.91
37	新甲州金 甲重貳朱判	新甲州金 甲重貳朱金	個人蔵	裏面の上部に「甲」字極印、下部に「重」字極印あり	0.93
38	新甲州金 甲重貳朱判	新甲州金 甲重貳朱金	個人蔵	裏面の上部に「甲」字極印、下部に「重」字極印あり	0.92
39	新甲州金 甲重中判	新甲州金 甲重中判	個人蔵	角形、松木極印、裏面は平滑、「甲」「重」字極印あり	0.42
40	新甲州金 甲定壹分判	新甲州金 甲定壹分金	個人蔵	裏面の上部に「甲」字極印、下部に「定」字極印あり	3.69
41	新甲州金 甲定壹分判	新甲州金 甲定壹分金	個人蔵	裏面の上部に「甲」字極印、下部に「定」字極印あり	3.71
42	新甲州金 甲定貳朱判	新甲州金 甲定貳朱金	個人蔵	裏面の上部に「甲」字極印、下部に「定」字極印あり	1.88
43	新甲州金 甲定貳朱判	新甲州金 甲定貳朱金	個人蔵	裏面の上部に「甲」字極印、下部に「定」字極印、両替の極印1カ所あり	0.94
44	新甲州金 甲定貳朱判	新甲州金 甲定貳朱金	個人蔵	裏面の上部に「甲」字極印、下部に「定」字極印あり	0.89
45	新甲州金 甲定中判	新甲州金 甲定中判	個人蔵	角形、松木極印、裏面は平滑、「甲」「定」字極印あり	0.49
46	玩賞品	松木小判	個人蔵	表面上部中央に樺大極印、左右に樺小極印、下部の右に楕円形点印に「甲」字極印、左に楕円形点印に「松木」字極印あり、外縁部に点あり、裏は平滑、極印なし。	44.20
47	玩賞品	松木小判	個人蔵	表面上部に樺大極印、右に堅長の亀甲双郭に点と「松木」字極印あり、裏面は平滑。	15.29
48	玩賞品	松木小判	個人蔵	裏面の中央に長方形に「松木」字極印、天地左右に各1カ所の楕円極印、右上部に武田菱の極印あり、外縁部に点あり、裏面は平滑。	16.52
49	玩賞品	松木小判	個人蔵	表面上部に樺大極印、右に堅長の亀甲双郭に点と「甲」字極印、下部に長方形に「松木」字極印あり、外縁部に点あり、裏面は平滑。	8.57

## 幕府の金

No	貨幣名称(公称)	貨幣界分類名称	伝来	特記事項	量目(g)
50	慶長小判(緋白打、前期、通称は京座)	個人蔵	小判師極印は未読、吹屋樺梁極印は「久」字、両替の極印は、裏面に2カ所、裏面に4カ所。		
51	慶長一分判(通称は経座)	個人蔵	裏面中央に小判師極印加打刺、表・裏・側面に多数の両替の極印あり。		
52	元禄小判(通称は長元)	個人蔵	裏面に「元」字極印、小判師極印は「イ」字、吹屋樺梁極印は「村」字、両替の極印は、裏面に1カ所、裏面に5カ所。		
53	元禄一分判	個人蔵	裏面に「元」字、裏面中央に小判師極印加打刺、両替の極印は裏面に3カ所以上、側面に1カ所以上あり。		
54	元禄二束判	個人蔵	両替の極印は、裏面に2カ所以上、側面4カ所あり。		
55	宝永小判	個人蔵	裏面に「乾」字極印、小判師極印は「栄」字、吹屋樺梁極印は「カ」字、両替の極印は、裏面に3カ所、裏面に3カ所以上あり。		

No	貨幣名称(公称)	貨幣界分類名称	伝来	特記事項	量目(g)
56	宝永一分判	宝永一分金、乾字一分金	個人蔵	裏極印に「乾」字、両替の極印は、裏面に5カ所以上あり。	
57	宝永一分金	宝永一分金、乾字一分金	個人蔵	裏極印に「乾」字、両替の極印は、裏面に1カ所以上、裏面に5カ所以上、側面に1カ所あり。	
58	享保大判	個人蔵	裏面に後藤典典の認め替へ、墨判の割落がなされていない。金見役極印は「カ」「久」字、右が「石」字、左が「竹」字、左側面の中央に雄狹の穴あり。		
59	享保小判	西脇康	2002年4月20日持参予定		
60	享保一分判	享保一分金	個人蔵	慶長一分判の可能性大、表面の「一分」の「一」字は濁点を突き出ないが、水平に伸びる。裏面中央に小判師極印加打刺、両替の極印は、表面に1カ所、裏面に9カ所以上、側面に8カ所以上あり。	
61	享保一分判	享保一分金	個人蔵	両替の極印は、裏面に6カ所以上、側面に1カ所以上あり。	
62	元文小判	元文小判	個人蔵	裏面に真「文」字極印、小判師極印は「栄」字、吹屋樺梁極印は「長」字、両替の極印は、表面に3カ所以上、裏面に25カ所以上あり。	
63	元文一分判	元文一分金、真文一分金	個人蔵	裏面に真「文」字、両替の極印が、裏・側面に多数あり。	
64	元文一分判	元文一分金、真文一分金	個人蔵	裏極印に真「文」字、両替の極印が、裏・側面に多数あり。	
65	文政小判	元文小判	個人蔵	裏面に真「文」字、金座人極印は「石」、吹所樺梁極印は「吉」字、両替の極印はない。	
66	文政一分判	文政一分金、華文一分金	個人蔵	裏極印に華「文」字、両替の極印は、側面に1カ所あり。	
67	文政一分判	文政一分金、華文一分金	個人蔵	裏極印に「文」字、両替の極印はない。	
68	五両判	天保五両判	個人蔵	裏面に「保」字極印、金座人極印は「沙」字、吹所樺梁極印は「長」字、両替の極印はない。	
69	天保小判	保字小判	個人蔵	裏面に「保」字極印、献上小判の様式で製造された七福小判の一つ。金座人極印は「久」字、吹所樺梁極印は「吉」字、両替の極印はない。	
70	天保一分判	天保一分金、保字一分金	個人蔵	裏面に「保」字、両替の極印はない。	
71	天保一文判	天保一文金、保字一文金	個人蔵	裏極印に「保」字、両替の極印はない。	
72	安政小判	正字小判	個人蔵	裏面に「正」字極印、金座人極印は「へい」字、吹所樺梁極印は「神」字、両替の極印はない。	
73	安政一分判	安政一分金、正字一分金	西脇康		
74	万延大判	個人蔵	墨判は後藤典典、表面は製目目標の打目。金見役極印は、上が「吉」、右が「久」、左が「き」		
75	万延小判	難小判	個人蔵	金座人極印は「九」字、吹所樺梁極印は「キ」字、両替の極印は、裏面に1カ所あり。	
76	万延一分判	万延一分金	個人蔵	両替の極印はない。	
77	文政真文二分判	真文二分金	個人蔵	逆刺、珍品、両替の極印はない。	
78	文政華文二分判	華文二分金	個人蔵	両替の極印はない。	
79	安政二分判	安政二分金	個人蔵	両替の極印はない。	
80	安政二分判	安政二分金	個人蔵	両替の極印はない。	
81	安政二分判	安政二分金	個人蔵	両替の極印はない。	
82	安政二分判	安政二分金	個人蔵	両替の極印はない。	
83	万延二分判	明治二部金、貨幣司二分金	個人蔵	両替の極印はない。	
84	万延二分判	明治二部金、貨幣司二分金	個人蔵	両替の極印はない。	
85	万延二分判	明治二部金、貨幣司二分金	個人蔵	両替の極印はない。	
86	万延二分判	明治二部金、貨幣司二分金	個人蔵	両替の極印はない。	
87	万延二分判	明治二部金、貨幣司二分金	個人蔵	両替の極印はない。	
88	万延二分判	明治二部金、貨幣司二分金	個人蔵	両替の極印はない。	
89	万延二分判	明治二部金、貨幣司二分金	個人蔵	両替の極印はない。	
90	万延二分判	明治二部金、貨幣司二分金	個人蔵	両替の極印はない。	
91	万延二分判	明治二部金、貨幣司二分金	個人蔵	両替の極印はない。	
92	万延二分判	明治二部金、貨幣司二分金	個人蔵	両替の極印はない。	
93	天保二朱判	天保二朱金	個人蔵	両替の極印はない。	
94	天保二朱判	天保二朱金	個人蔵	両替の極印はない。	
95	天保二朱判	天保二朱金	個人蔵	両替の極印はない。	
96	天保二朱判	天保二朱金	個人蔵	両替の極印はない。	
97	天保二朱判	天保二朱金	個人蔵	両替の極印はない。	
98	天保二朱判	天保二朱金	個人蔵	両替の極印はない。	
99	天保二朱判	天保二朱金	個人蔵	両替の極印はない。	
100	天保二朱判	天保二朱金	個人蔵	両替の極印はない。	
101	天保二朱判	天保二朱金	個人蔵	両替の極印はない。	
102	天保二朱判	天保二朱金	個人蔵	両替の極印はない。	
103	万延二朱判	万延二朱金	個人蔵	両替の極印はない。	
104	万延二朱判	万延二朱金	個人蔵	両替の極印はない。	
105	万延二朱判	万延二朱金	個人蔵	両替の極印はない。	
106	万延二朱判	万延二朱金	個人蔵	両替の極印はない。	
107	万延二朱判	万延二朱金	個人蔵	両替の極印はない。	
108	万延二朱判	万延二朱金	個人蔵	両替の極印はない。	
109	文政一朱判	文政一朱金	個人蔵	両替の極印はない。	
110	玩賞品	稲荷小判	個人蔵	表面の上部に四角に「福」字、中央に如意宝珠、下部に2頭の狐極印あり。裏面は平滑、両替の極印が、表裏面に多数あり。	
111	玩賞品	甲子丸小判	個人蔵	表面に芙蓉目を打ち、中央に丸に大黒極印、右上部に丸に「文」字極印あり、裏面は平滑、右側に分銅型準則に「甲子」字極印あり。	
112	玩賞品	弁定小判	個人蔵	表面に芙蓉目を打ち、中央に「弁定」字を印刷、その下に花押極印、天地左右に1カ所ずつ丸に楕円極印あり、裏面は平滑。	
113	玩賞品	鹿厚丸小判	個人蔵	円形の厚延金、表面には逆H型に亀(馬?)の極印あり、表面に1カ所以上、両替の極印あり、裏面は平滑。	
114	玩賞品	構丸判金	個人蔵	表面に芙蓉目を打ち、中央に楕円極印あり、裏面は平滑。	

## 出土した金銀貨

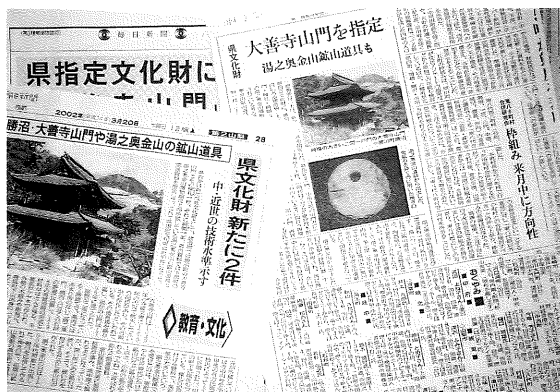
No	貨幣名称(公称)	貨幣界分類名称	伝来	特記事項	量目(g)
115	新甲州金 甲定壹分判	新甲州金 甲定壹分金	個人蔵	裏面の上部に「甲」字極印、下部に「定」字極印あり、両替の極印はない	
116	慶長一分判	慶長一分金	個人蔵	裏面に大樺極印、小樺極印を加打刺、加極印としては大珍品。両替の極印は、右側面に1カ所あり	
117	南鐙二朱判	古南鐙二朱銀	個人蔵	裏面に「乾」字極印、小判師極印は「久」字、吹屋樺梁極印は「カ」字、両替の極印は、裏面に3カ所、裏面に3カ所以上あり	

## 様々な甲州金

No	貨幣名称(公称)	貨幣界分類名称	伝来	特記事項	量目(g)
118	古甲州金 壹分判	古甲州金 松木壹分金	個人蔵	■玩賞品?(全体としてあり得ない形態)、松木極印、裏面は平滑、中央に三日月様の極印あり	3.73
119	古甲州金 壹分判	古甲州金 松木壹分金	個人蔵	■要検討(極印が相違)、松木極印、裏面は平滑	3.69
120	古甲州金 壹分判	古甲州金 山下壹分金(裏面に「樺」極印)	個人蔵	■要検討(極印が相違)、裏面に花押極印は不自然。山下極印、裏面は平滑、下端に「樺」字極印あり	4.08
121	古甲州金 壹分判	古甲州金 松木壹分金	個人蔵	■要検討?(表面の極印が不自然、側面と裏面の外周部に研ぎ痕)、松木極印、裏面は平滑、中央に三日月様の極印あり	3.62
122	古甲州金 貳朱判	古甲州金 山下貳朱金(裏面に「樺」極印)	個人蔵	■要検討?(極印が相違)、裏面はほぼ平滑、下部に「樺」字極印あり	1.86
123	古甲州金 壹朱判	古甲州金 松木無地壹朱金	個人蔵	■要検討(極印が相違)、松木極印、裏面は平滑、極印はない	0.97
124	古甲州金 壹朱判	古甲州金 松木無地壹朱金	個人蔵	■要検討?(極印が相違)、松木極印、裏面は平滑、極印はない	0.93

## 活動報告

### 湯之奥金山関連資料1,510点 “山梨県指定文化財” に!



平成元年度から3箇年にわたる総合調査の中、鉱山臼をはじめとする鉱山道具、生活陶磁器、現地に残されている石造物や、その後の館の現地調査で発見された追加資料を含めた1,510点が、2月20日付で山梨県指定文化財の指定を受けました。

歴史事実を今に伝える重要な手がかりである、貴重な資料の散逸を防ぐためにも重要な意味を持つこの指定は、新聞各紙にも掲載されましたので、ここに紹介させていただきます。

### 第4回 企画展 湯之奥金山博物館「収蔵庫」展 道具でみる初源的金山遺跡の全容

2月9日(土)～3月24日(日)まで約1箇月半にわたって開催された収蔵庫展が無事終了しました。

当館の常設展示は、資料をもとに戦国期鉱山作業を忠実に再現し、その作業の方法を伝えています。展示室に並んでいるものは、中でも特に代表的なものです。博物館収蔵庫には、常設展示には並ばなかったけれども是非見ていただきたいという資料が数多く保管されています。

今回の企画展は、その後の現地調査で発見された資料に加え、それらから明らかになったことなどを追加しながら、改めて湯之奥金山の歴史を見直してみると同時に、資料を寄贈して下さった方々への謝意も込めて開催いたしました。

生活陶磁器などの展示品を含めるとその数200点にのぼり、期間中は多くの方々に御覧いただくことが出来、好評のうちに終えることが出来ました。

### 平成13年度 公開講座 終了

平成13年度公開講座テーマ「金山衆の産金技術を探る～粉成・比重選鉱・灰吹・色揚げの理論と実際～」のもと、昨年9月から5回にわたり開催してきた公開講座も1月19日をもって終了しました。

今年度の最終回は、貨幣研究の第一人者でもあり、当博物館事業にも尽力いただいている西脇康先生。「文献に表れた甲州金と現物貨幣」という演題で約1時間半お話しされました。

すでに何度も講演をいただいている西脇先生はじめ、今回も各方面からの御協力と、町内外から多くの出席者をいただくことが出来ました。

毎年開催してきた公開講座を通して、いつも受講して下さる方など顔見知りも増えました。館とし

てもより一層多くの方に御聴講いただきたく、呼び掛け周知をしていきます。また、これら講座は講演集「金山史研究」として年度ごとに発刊していきますので、こちらも御活用ください。



## どんど焼き、お山飾り

1月13日(日)

博物館を訪れた方々に地域の行事など多くのことを知っていただくため、エントランスにはその時期の飾りを再現させます。1月は特に行事が多いのですが、博物館では開館以来、毎年「お山飾り」とどんど焼きの「団子花」を飾り付けています。

今年はこの行事を地域の子供たちにも知ってもらうため、管内小学生にお山飾り製作と、お団子作りの参加を呼び掛けたところ、約10人が集まってくれました。見たことはあっても作ったことはないという子供たちは、初めての作業に最初のうちはとまど



いもあったものの、次第に慣れてきて、お団子作りの時にはとても楽しそうに作っている姿が印象的でした。

## 出前博物館

3月7日(木)

平成14年度から学校週5日制が本格的に始まり、博物館や美術館など受入れ体制が進んでいます。当館でもコンピューターを設置し、誰でも自由にインターネットを楽しめるようにしたり、またキッズライブラリーコーナーを設ける計画など、子供たちの居場所作りをしています。同時に“金山”と言う視点から、子供向けのプログラム展開で子供の科学する芽を引き出す手助けをしたり、教室に居ながらにして下部町の歴史を学び、地域を自慢できる知識を



身に付けていただく“出前博物館”を実施しています。

第1回目は、管内久那土小学校4、6学年の要請により谷口館長が出向きました。谷口館長は、鉱山臼を何点か持っていき、実物を見せながら説明し、まるで教室内に小さな博物館を再現させたようでした。約1時間の授業の中で、金山に関する話はもちろんのこと、普段、なかなか聞くことの出来ない文化財についての話など分かりやすく話され、とても引き付けられた様子でした。

後日、この出前博物館についての子供たちの感想が博物館に届きましたが、「コーラの瓶が文化財ということに驚きました」、「石をみると拾いたくなります」などと、興味を示してくれた子供たちの言葉が連なっていました。

この出前博物館は、要請があればいつでも対応できるように考えています。出前博物館についての問い合わせは当館まで。

## 第11回 親子映画観賞会

3月27日(水)

春休み、夏休みなどの長期休暇中は、休館日返上で水曜日の午後、映画観賞会を行います。今回も同様、3月27日の水曜日に春休み親子映画観賞会を開催しました。作品は3本で「金田一少年の事件簿」「ドラえもん」「ONE PIECE」。これまでのアンケートで要望の多かった3作品を上映しました。春休みということで多くの参加申し込みをいただき、約100人の大規模な映画観賞会となりました。

親子映画観賞会も通算11回目を数えることが出来ましたが、その都度お願いしているアンケートでは「面白かった」「よかった」という声が多く寄せられています。「とにかくずっと続けてほしい」というたくさんの要望がある限り、みんなで楽しめる素敵な作品を上映してまいりますので、今後も多くの方の御参加をお待ちしております。

## 私の研究ノート⑨

### 金山衆の系譜①

高岡伸五（湯之奥金山博物館友の会会員）

今回は、湯之奥（中山・内山・茅小屋）金山と、富士（麓）金山の金山衆の系譜について、金山に関わる文書から、その可能性を模索してみました。

次ページの表（高岡・谷口作図）は、一つの試案として作成しました。これを基に検証し、削除したり、新たな資料から追加したり、並び替えたりしながら金山衆の系譜を追いかけていきたいと思います。

まず、分類される一族は、太田（大田）、竹川、河口、石川（石河）、望月の5系統です。

#### 太田一族が登場（富士（麓）金山）

湯之奥、富士（麓）を通じて最初に登場するのが、富士金山の太田一族です。1534（天文3）年に寿桂尼から太田神五郎へ、1551（天文20）年に今川義元から太田掃部丞宛に「富士金山へ上げる荷物を毎月5駄、6回」認める内容で確認できます。

この2つの文書は、何れも富士金山は甲駿の国境近くであるが、甲斐国への出境を禁じています。

#### 中山金山へは河口一族

続いて登場するのが、中山金山の河口一族です。1568（永禄11）年の「中山金山への河内からの荷物の通過」を認める文書です。この内容は河内（富士川流域）の番所を自由に通過していいというものです。という事は駿河から甲州へ入っていいという意味も含まれています。

ただし、この文書には宛名がありませんが、大変大事な通行証ですから、肌身離さず大切に保管された事は言うまでもありません。

また、1571（元亀2）年の深沢城奉仕における功績で中山之金山衆拾人は武田家から糶150俵の褒美をもらいました。これも大変名誉なことですから、この武田家の朱印状は大切に保管されていたことは間違いありません。おそらく金山衆拾人の親方が保管したと考えられます。個人名はありません。

河口一族の頭領と考えられる河口六左衛門尉が文書に登場するのは、1583（天正11）年になってからのことです。

穴山勝千代文書は中山金山の河口六左衛門尉の棟別諸役・堀間の役免許を前々からの判形に任せ（従い）ということで免除しています。これは勝千代以前の信君の時代にも免除されていたことになります。

#### なぜ河口一族なのか

では、1568（永禄11）年と1571（元亀2）年の文書には個人名が無いのに何故河口六左衛門尉と言えるのかということです。

それは、これだけ大事な文書ですから、当然、大事に守られて来たわけですが、それを太田神五郎、河口六左衛門尉の子孫である市郎右衛門がもっていたからです。

実は、これらの文書の所在はいま分かりません。しかし、17世紀に駿河国の役人が幕府の命をうけ、その時代に現存した文書を書き写したものが、いま「判物証文写」として内閣文庫に大切に保管されていますから、本物と同じ資料の価値があります。

しかも、本物を持っていた人の名前が、書き写す際に役人が小さな文字で注記していましたから、資料的な価値はさらに高い（谷口館長）と言われています。

その注記には最初の今川寿桂尼の文書「太田神五郎」子孫は富士郡北山村市郎右衛門とあります。

同様に1568（永禄11）年と1571（元亀2）年文書にも、さらに1583（天正11）年文書にも子孫は富士郡北山市郎右衛門とあります。

これら4通の文書は河口一族に守られて来たわけで河口六左衛門尉だということが分かります。

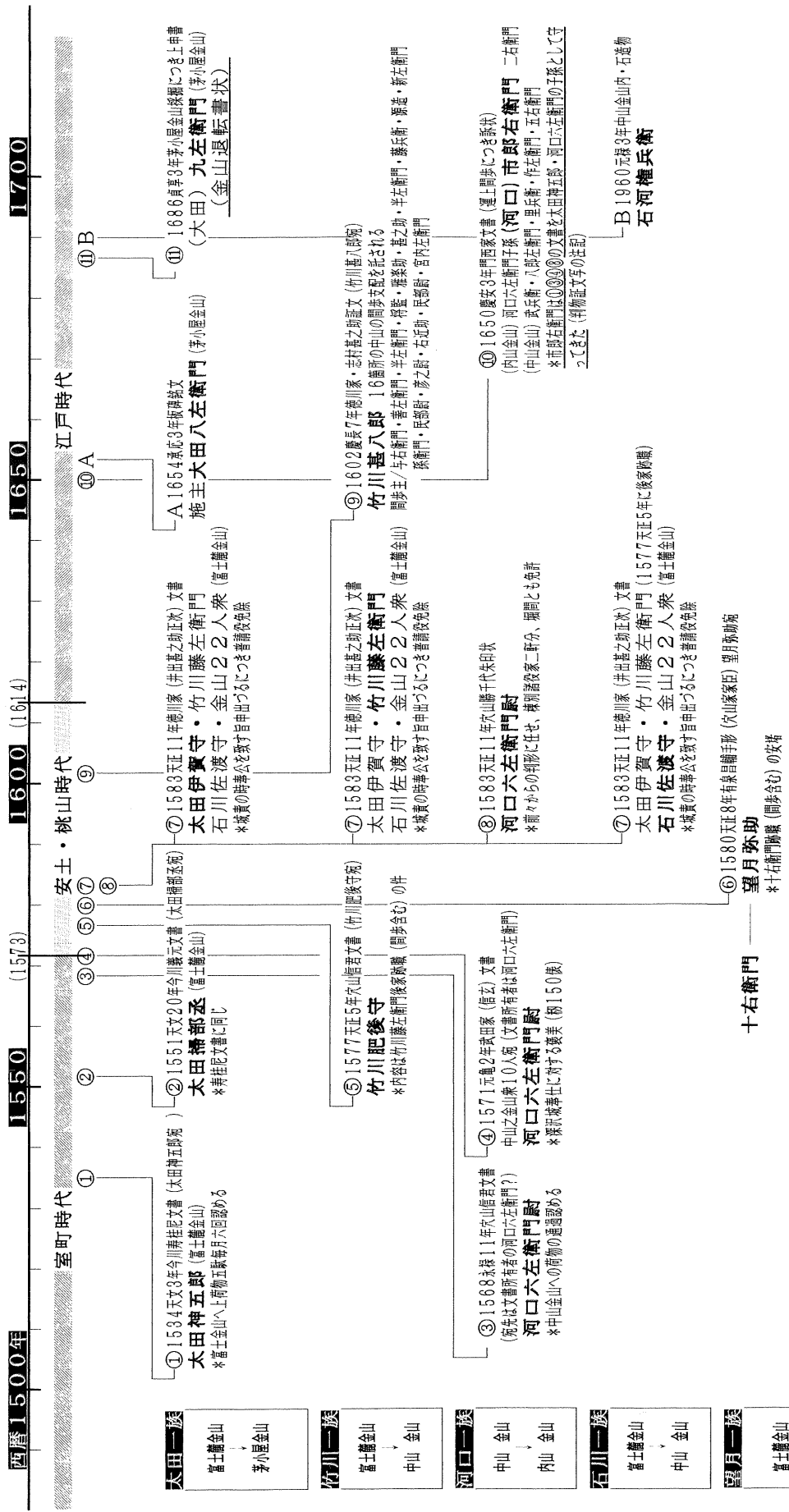
#### 同族でつながる富士金山と中山金山

また、富士金山の太田神五郎と中山金山の河口六左衛門尉は、同族の可能性が高いことから、両金山の繋がりはより一層深いものがあつたと思われます。

#### 子孫の市郎右衛門は内山金山に

文書を所有していた太田、河口の子孫市郎右衛門は、1650（慶安3）年の門西家文書に沢内内山市郎右衛門として見られます。

# 湯之奥（中山・内山・茅小屋）／富士（麓）金山金山衆の系譜



私の研究ノート⑨付図

(高岡伸五・谷口一夫 2002・3作成)

## 館からのお知らせ

### 1. 湯之奥金山博物館 友の会 会員 募集中! 湯之奥金山博物館 ボランティア協力員

現在、平成14年度友の会会員、ボランティア協力員を募集しています。

詳しくは、金山博物館まで、お問い合わせください。

### 2. 金山史研究第3集発刊のお知らせ

県内外に広く浸透している公開講座ですが、博物館では講座記録集「金山史研究」として刊行しております。

今般、講師の先生方の御協力と承諾を得て発刊準備を進めているのは、平成11年度に実施された記念講演（2回）及び公開講座（5回）の7回分です。

詳細は次のとおりですが、不明な点は博物館までお問い合わせください。

◎書名 金山史研究（第3集）

—平成11年度記念講演と公開講座の記録—

◎体裁 A4版120ページ

◎定価 1,200円

◎発売予定 平成14年4月下旬

◎掲載内容

#### 記念講演

「岩手の金山 大槌町金沢金山の例」

元岩手県大槌町文化財保護審議会会長

花石公夫

「湯之奥金山と門西正勝家文書」

山梨県史編さん室主任 堀内 亨

#### 公開講座

「鉱山技術史に見た湯之奥金山遺跡

～初期金山の仕法～

金属鉱山研究会会長 村上安正

「佐渡相川金山にみる鉱山技術

『水揚げ』～民俗学的考察～

佐渡相川郷土博物館学芸員 柳平則子

「古代中国・中世ヨーロッパの鉱山技術

～文献考察と視角～

金属鉱山研究会会長 村上安正

「兵庫県妙見山麓遺跡に見る精錬遺構と技術

～考古学調査から～

妙見山麓遺跡調査会調査主任 神崎 勝

「奥州と北海道の産金技術」

岩手県埋蔵文化財センター調査第二課長

高橋與右衛門

## 編集後記

第4回企画展終了、そして第5回企画展の開催、年度末ということもあり、ばたばたと慌ただしい怒濤の3月が過ぎ、4月に突入。今年は暖冬で桜も早く咲いてしまったことが連日ニュースでも取り上げられていましたが、その桜もあっという間に散って

しまい、何だか植物まで慌ただしかったと、自分に照らし合わせて考えてしまいました。そうはいつでも春。心がうきうきする季節でもあります。

博物館も開館以来多くの方々に支えられ、4月24日で開館満5周年を迎えます。それを記念しての企画展「金貨」。ゴールデンウィーク明けの5月7日まで開催していますので是非御来館ください。

博物館だより

第20号

平成14年3月31日

発行 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館  
山梨県西八代郡下部町上之平1787番地先  
TEL 0556 (36) 0015  
FAX 0556 (36) 0003

博物館ホームページアドレス <http://www.2.town.shimobe.yamanashi.jp/kinzan/>

博物館Eメールアドレス [kinzan@town.shimobe.yamanashi.jp](mailto:kinzan@town.shimobe.yamanashi.jp)